

菊田太郎著

東海道守口宿・守口駅

「産業分布論」を専攻する経済地理学者である著者は、そのかたわら家蔵の守口宿に関する根本史料を駆使されて、同宿の研究にあたられていたが、このたび一書にまとめられた。

本書は「徳川時代における守口宿」と「明治維新後の守口宿・守口駅」の前後二篇にわかれ、その中に宿の成立・構成・役職員・助郷・本陣と旅籠屋・継立てと通行・財政・維新後の宿駅制の変化などについて、原史料を豊富に引用しつつ論証されている。大阪に最も近い宿であるため、人足継ぎのみを行なう休息所としての性格が濃い小駅であり、助郷村の疲弊も比較的少なかったなどの同宿の特色が、なかば以上の頁数をしめる史料に裏づけられて、克明にえがきだされている。ことに、「町村と宿駅との関連」や「維新直後の宿駅制度」などは、従来とりあげられることの少なかった問題であり、教えられる点が多い。

徳川時代の宿駅の内容は、各宿ごとに異なり、原則では律しえないため、本書のように一つの宿に関するすべての問題をとりあげ、史料集としての価値も大きい本書の出版は極めて有意義であるといえよう。叙述の行間にある多くの史料には、読みやすくするため「」内に、字を補つたりしているなど、行届いた配慮がみられる。(A五判二三〇頁グラビア四頁 昭和三四年八月 京都柳原書店刊 定価三八〇円) (山澄 元)

三木与吉郎編

阿波藍譜 栽培製造篇

さきに「三木文庫所蔵庶民史料目録」を刊行され、学界に貢献されるところのあつた三木産業株式会社が、その修史事業の一環として、斯業に關係の深い藍関係文獻を集成して、一書を公刊された。三木家第十三世当主の編になる『阿波藍譜』一冊がそれである。日本資本主義発達史の上で、藍は商業的農業の重要な一品目として、夙に注目されたところであり、明治以降、外国産藍、或いは人造藍の

輸入におされて、漸次衰退の一途を辿つているとはいえ、その位置はなお研究上の好個の課題といえるものであつた。就中、阿波藍の名が、国内市場にもつとも卓絶した地位を占めていたことは周知の事実に属する。今回刊行に及ばれた「阿波藍譜」は、十一世三木与吉郎順治の稿「藍の栽培及び製法」に始まり、阿波藍の栽培・製造に関する文獻を蒐録して、研究の発展に寄与するところ大なるものがあると考ええる。今試みにその目次を記すと、

第老編 明治以前の伝授書

藍作り方伝授書

森下讀之助

染製法伝授書

森下讀之助

藍の寝させ方(染の製法)

第貳編 明治期の通誌

阿州産藍之説

安岡 百樹

阿波国藍業略誌

椎野 宰資

第參編 明治以後の研究

阿波国藍作法

吉川 祐輝

蓼藍及其製品ニ関スル研究成績

町田 咲吉

阿波の藍作

徳島農事研究会

阿波藍の寝床

三木 文庫

の三編について、第四編は参考文献として農
業全書などの農書より、藍関係部分を抜粋し
ており、第五編は各文献の解題を付し、付録
として阿波藍に関する主要統計が、明治以降
の統計書より作成され付加されてある。

このように本書は、文献のみならず統計迄
含んでいて、これにより阿波藍の時代的展開
やその比重を窺うことのできる豊富な内容も
もっている。しかも刊行に当っては、原本挿
図をも写真図版として含め、綿密な考訂が行
われているように思われ、解題また懇切であ
り、蒐集に際しての苦心の程を充分察するこ
とができる。恐らく本書は、その内容・出来
栄えからいつて、私どもの渴を癒すものと云
えよう。

末筆ながら、かかるすぐれた文献集を刊行
された三木産業株式会社、社長三木与吉郎氏
ならびに三木文庫後藤捷一氏の御努力に対し
て厚く敬意を表するとともに、今後とも、そ
の修史事業を続行されることを切望して、簡
単な紹介の筆をおきたいと思う。

(A5判五四〇頁 昭和三五年一月 三木産
業株式会社刊 非売品) (脇田 修)

学 界 消 息

史 学 研 究 会 関 係

二月例会

三月六日(土) 午後一時 於薬友会館

民族研究からみたチベット問題

川喜田 二郎氏

チベット王の住居について

佐藤 長氏

国 史 関 係

読史会三月例会

三月十二日(土) 午後一時

於陳列館演習室

近世本願寺教団確立の前提 児玉 識氏

八時間労働日制の実現と

佐々木隆爾氏

読史会予餞会

二月二十九日(月) 午後三時

於薬友会館

本年度卒業生八名はじめ、小葉田・赤松・
柴田教授、岸・上横手助教授、先輩から井

川定慶・奈良本辰也・平山敏治郎氏らの参
加を得て、すこぶる盛会裡に、卒業生の前
途を祝した。

東 洋 史 関 係

予餞会 二月二十七日(土)

昭和三五年卒業生の予餞会は二月最後の土
曜日、薬友会館バーラーで開かれた。宮崎
教授はじめ教官・先輩・学生三八名が列席
し、昼食を共にし、「予餞会の今昔」など
なごやかな話題の中に門出を祝った。

旧制大学院例会

一月例会 一月一九日(土)二時 薬友会館

明代監生の出身について

北周政權の成立 谷 光隆

二月例会 二月一三日(土)二時 薬友会館

スタイン文書(63)に於ける租税等

善峰憲雄

朝鮮の現状と平和的統一問題について

李 大熙

三月例会 三月一二日(土)二時 薬友会館

清代の商人 笹本重巳

中近東の近況 中谷英雄

『東洋史研究』合評会